

質問1「A 前文 についてご意見がありましたらご記入ください」
A-1について、多様性の時代でそれぞれに違いがあることを「理解」したうえで、お互いを「認め合う」のではないのでしょうか。特に子どもに関しては、いきなり「認めましょう」というよりは、さまざまな違いがあるということを教え、それを理解したうえで、お互い認めていきましょうという方が良いと思います。
「Teemムサカツ2022春」のように子どもが直接意見を出せる場があり、そのこと事を検討できている事には共感できます。是非今回の意見を活用できるような具体的な行動につながることを期待します。
A-2 権利の保障の骨子 子どもの最善の利益を保障する見地から学校の支援、地域の子ども支援のシステムを確立することは大事だと思います。時代の変化の中で家庭や地域、学校の求められる役割が増加、多様化していますが、「学校の疲弊」や「地域の再生」という表現は、学校が疲れている、地域が死んでいるという誤解を招く表現なので避けた方がよいと考えます。特に、学校が疲れているという表現は、子どもたちのために尽力している市内小中学校の先生方の努力を否定する意味合いにもとられます。先生方の努力を無にしない表現に改めていただきたいです。
条例の骨子の6つの権利は良いと思います。特に「子どもは、戦争に巻き込まれず、平和に生きる権利があること。」は、中島飛行機の空襲があった武蔵野市で育つ子供たちならではの大事にしてほしいものです。「子どもには、愛される権利がある」は、児童の権利条約の前文「児童は、その人格の完全なかつ調和のとれた発達のため、家庭環境の下で幸福、愛情及び理解のある雰囲気の中で成長すべきであることを認め、」を意図していると思うので、文言を直した方が良いです。
A2 権利の保障方法について 「家庭、学校の疲弊と限界」という言葉が気になります。何をもって疲弊しているとし、限界とはどのような状態のことを指すのでしょうか？また、それを自覚するのは家庭と学校でしょうか？それとも市でしょうか？文章の流れ的には市が自覚すると読み取れますが、家庭や学校のことを「自覚」というのは違和感があります。「家庭も学校も自分（市）のことだ！」ということで自覚という言葉を使用しているのでしょうか？疲弊も限界もとてもネガティブな言葉なので、武蔵野市の現状が疲弊して限界を迎えているのであれば、危機感を表すためにも致し方ないのかもしれませんが、そうでないのであれば、もう少し別の言い回し方を検討できないでしょうか。
戦争に巻き込まれないというのは、巻き込むのは、戦争をする側なので表現的に他がないかと感じました。
子供の権利は「家庭や学校など身近な人間関係で保障されることが望ましい」というが、家庭環境によっては困難な現実があると思う。そのような家庭も含めての表現なのだとするとなかなか理想と現実の差を感じずにはいられません。
質問2「B 総則 についてご意見がありましたらご記入ください」
B-2 条例上の用語の定義について 育ち学ぶ施設の定義の中に、フリースクールも入っているのではないかと。フリースクールがその子どもにとって、唯一の学びと、子ども同士の関わりの場、成長する日常の場となっているケースもある。
B-1に切れ目ない支援を継続的に・・・とありますが、組織としてなかなか切れ目なくという難しさを感じています。具体的に切れ目ない支援の組織作りと活用を考える必要があると感じます。
B-1 子どもたちが地域の人々、おとなと対等な関係であることは、ユニセフにおいて示されているが、「パートナー」と表現するのはいかがか。
条例上の用語の定義の補足意見で、若者の居場所支援について「18歳を超えても継続することができるよう留意する必要がある」とあるが、この条例の枠組みの中で18歳以降も支援をしていくということなのか、それとも別の枠組みの中で支援をしていくということなのか。支援を必要とする人がいることはわかるので、明確にしておいた方がよいのでは。
良いと思います。
世界基準での制定内容だけでは、日本には当てはまらない事がたくさんあると感じます。日本の教育においては協調性・社会性を重んじられているので、意見を言う権利や休む権利とだけ言われても実際は出来ないのではないのでしょうか。このような権利を日本で行っていくには教育自体変わっていく必要があると感じます。日本の家庭も個人主義の欧米とは異なるので、当てはめることは難しい事もあります。その中で現状で出来ることを模索してくしかないのかと感じました。
「家庭、学校、地域」とあるが、「骨子の基となる考え」に乳幼児も含まれているので、乳幼児が属する幼稚園、保育施設等を加えると良いと思う。

質問3「C 誰が保障するのか についてご意見がありましたらご記入ください」
C-3 保護者の役割 ○保護者は、子どもの尊厳（品性等）を傷つける体罰、暴言、過剰な叱責等の人権侵害性を認識しつつ、これらの精神的暴力に寄らない養育を 目指す こと。 この表現だと、目指したけれども結果的には精神的暴力をしてしまう保護者を肯定してしまうと読み取られるおそれがある。 「～養育を目指すこと」ではなく、「～養育を行うこと」ではないか。
保護者の役割とありますが、今は保護者の考え方が自分中心になっている事が多くあります。子どもに視点を向けるようにすることはどのようにしていく事が必要になるのか等考えていく必要があると思います。
今までの東京の子ども成長過程では、行政だけではなく、家庭やご近所・地域社会・学校・趣味のグループ・塾などが、無償や有料で支えてきたと考えます。この条例の内容では、市が多くの面で補償するように読めました。市以外の無償の協力も必要と考えます。このことも謳っても良いのではと思います。
C-2 学校の多忙な環境とあるが、子どもたちは習い事や塾などスケジュールが詰め込まれている状況にある。子どもたちを多忙な環境においているのは、放課後家庭においておくことができずに、子どもの保育場所を求めるため家庭にあるのではないか。
保護者の役割の補足意見で、保護者・家庭 の子育てにおける第一義的責任について、「責任を強調すべきはないという意見も 多くありました」とある。様々な家庭があることは理解するが、責任があるからこそ、困難が多い家庭への支援を行う根拠になるのでは。責任の所在は明らかにしておくべきだと思う。
条例化に伴う予算措置により、市の役割・責務が明確になると思います。市民の役割としては、より啓発活動が必要になると思います。
具体的に市のどのような機関、場所が聞いてくれるところなのかを明確にするとよいと思いました。
C-2、市民の役割の条例の骨子 「市民は、本条例で定めた子どもの権利の理念をふまえて、市と連携、協働して地域における子どもの権利の実現に努め、子どもとともにまちをつくる こと を目指すこと。」について市民として、市と連携のみならず、施設であったり事業者とも連携していくべきではないか。それともここという市と連携とは、市が行う活動ではなく、市が協力する関連機関全体を指すのか。
保護者は主たる養育者ではあるが、主たる養育者としての力量のない保護者、子どもに対するあらゆる虐待を行う保護者も多い。本来の養育ができない保護者に代わり、養育を行う者を指定する必要がある。その代替え者も保障する者にあたる。その記載は必要ないのか？
保障の担い手は「市」以外にはないため、「市民は、・・・を目指す」という文言や「保護者は、・・・役割を担っている」という文言は、市民(保護者)に対して責任を押し付けているように捉えられかねないと思います。
実施機関のみではなく市議会などの協力も仰げる体制づくりが必要なのではないか。
質問4「D 子どもを支える人びとへの支援 についてご意見がありましたらご記入ください」
D-1 子どもを支える人びとへの支援の必要性 実際、児童虐待、ネグレクトを受けている子どもがいる中、家庭へ介入しなければならない場合も多々ある。児相のような権限を行使できる組織でなくとも、子どもに関わる施設職員、市民が、もう少し自然に家庭に介入できる、気運の醸成が必要と思える。子育ては、家族のみが行うものでもないといった。
支える人びとに限らず、まわりの大人が、近年の状況からしても一歩踏み込んで子供を助けられる環境になれたらと思います。
D-3 に職員の研修の記述がありました。現在それぞれの研修は充実していますが、一緒に学ぶ機会はほとんどありません。保育士だけで学ぶのではなく、学校の先生と共に意見交換などもしながら共に学びあえると良いと思います。
市内に民間保育園、認証保育園が増えています。乳幼児は声にできない子どもの声があると思います。保育士の質的向上と待遇保障、市としての配置基準で、安心で安全な保育環境が出来るよう環境整備が望まれます。
あらゆる支援には、子供の属する家庭環境の実情をふまえた上での財政支援も含まれるのが気になりました。（世帯としては所得があるが、養育者の経済的負担を軽くするために自分の進学先の選択肢を狭めるなど）

<p>子どもの権利を害する虐待などの問題を見つけ対処するためには、地域ぐるみで子どもを見守ることが大切である。しかしながら、武蔵野市の現状として自治体がなく近隣住民の繋がりが薄い点や新型コロナウイルス流行によって地域の繋がりが希薄になりつつある。そのため、関連機関への支援はもちろんのこと、市民に理解してもらえるようなリーフレット、市民向けの説明会などの市民向けの支援も必要ではないか。</p>
<p>いじめに対する対応や、子供たちのよりよい学びのためにも、教職員に余裕が必要です。例えば、部活の指導はスポーツジム等と提携し専門の先生にお任せし、顧問は指導者と生徒との橋渡し役にとすると、子どもにも、先生にも、コロナ禍で仕事が少なくなっているスポーツインストラクター等への支援にもつながります。今の状態では教師のなり手不足による、教育の質の低下も起こってくるのではないのでしょうか。武蔵野市では給食費の未納者への対応をどなたがなさっているのが存じませんが、悪質な滞納者には教職員では対応しきれないかと思います。納税課に委託する等、教職員が子供に向き合える時間を奪われないようなサポートが必要かと思います。</p>
<p>非常に大切な項と思います。</p>
<p>権利を主張したり意思を発露しにくい子ども、具体的に言うと障害を有する子ども、DVなど現にあるいは過去に抑圧を受ける（受けた）子どもに対し「子どもを支える人びと」の役割が重要と思われる。市の役割を明確化されたい。</p>
<p>質問5「E 保障すべき子どもの権利 についてご意見がありましたらご記入ください」</p>
<p>E-1について、骨子の基となる考え方（1）に「子どもには、無償で医療で受けられる権利があること」とあります。これは、現在本市が医療の無償化を図っているため言えることだと思いますが、このことが今後の「縛り」にならないか心配です。今後の財政状況によっては、受益者負担として一定の負担を求める可能性がないとも言いきれないのではないのでしょうか。そういった点から、「無償で」というより、「誰もが平等に医療を受けられる権利」や「医療を受けたいときに受けられる権利」など、費用のことではなく、受けたいときに公平に受けられるという趣旨の方が良いのではないかと考えます。 E-2について、市は「子どもの権利はわがままな助長」という誤解を解いていくなど…といった文言がありましたが、「権利」は主張し過ぎると、まさに「わがまま」につながるものであり、そこは表裏一体の関係性があると考えます。だからこそ、市民や保護者に「何をすべきか」ということをどのように周知、広報していくかは重要になると思います。子どもの権利は重要であり、書かれていることは理解できるものの、保護者としては「そうは言ってもその通りにできるのか、何をすべきなのか、うまく行かないこともある」などの不安が出るのではないかと思います。</p>
<p>子どもに関係ある施設の関係者は「子どもの権利」という言葉を耳にするとと思いますが、関わりのない人にも浸透できるように広報していく必要性を感じます。</p>
<p>E-2 子どもの権利について市民への普及・啓発を図ることはとても重要であるが、子どもの権利の日や週間、月間を定めることは、かえって子どもたちを多忙にするだけだと考える。市として権利の日、週間、月間を定めると、それに見合ったイベントや事業が求められる。その際、権利主体である子どもの参加状況が問われることになり、動員にかかる子どもの負担が増すと考える。遊ぶ権利、休む権利の保障を含め、子どもが権利があることを認識し、自由に選択できる環境を整えることが必要だと思う。学校においては、人権週間やいじめ防止月間、ふれあい月間など子どもの人権に関わる取組は既に行われている。また、年間を通じて子どもの人権に向き合い教育活動を行う必要がある。権利の日や週間、月間を定めると、その期間だけ取り組めばよいという易きに流れる傾向になることも否めない。</p>
<p>「子どもには、休む権利があること。」について、【補足意見】に記載されている「子ども特別休暇制度」は賛否があると思われます。特別休暇ではなく、体調（メンタルを含めて）が悪い時は、安心して休むことができる学校制度が必要です。</p>
<p>休む権利について、安易に学校休んでいいと子供は捉えがちなので説明を詳しく具体的に欲しい。</p>
<p>生理の貧困等、性差がある事象について身体を守られる権利</p>
<p>現在、子どもが性的被害にあう児童ポルノが問題となっている。子どもの心身ともに傷を残す児童ポルノの被害にあわないためにも、子どもたちによる危険性の理解も必要である。旭川の事件やインターネットでの児童ポルノ被害が大きく取り上げられている中、児童ポルノの防止も規定に取り入れても良いのではないか。</p>
<p>「休む権利」が分かりにくかったり、誤解されやすい表現になる可能性があるかもしれません。</p>

E 3 子どもへの子どもの権利広報・学習の項の＜子どもには、子どもの権利を知る権利があること。＞は単体で記載するのではなく、市がその広報に対して義務を負うことを同項目内に併記したほうが基の考えがわかりやすいように思います
市の施策等の意思決定過程を知る情報公開という意味での「知る権利」と、学びにあたって知ることを保障される学習権としての「知る権利」が混然としている印象。
衣食住・教育・最低限の生活保障などは日本国憲法にも唱っております。
質問6「F 子どもへの権利保障の仕組みを創る についてご意見がありましたらご記入ください」
「F-1子どもの居場所」の中の「子どもの休暇制度」について。大人の有給休暇の場合は、給料をもらっており、自分の裁量の中でスケジュール的に調整しながらすべき仕事をきちんとこなすことが前提でそのような制度が成り立っている。子どもの授業の場合はそうではなく、出なかった授業のフォローはすべて教員にしわ寄せがいくことになり、教員の負担が著しく増えてしまうところに大きな課題があり、実施は困難と考える。「F-2 学校外の多様な学びの支援」について、教育機会確保法13条が引き合いに出されているが、13条において経済的支援について言及されているわけではないため、「経済面」で配慮する、と記載があるのは拡大解釈である。
特に教育について、現実的にすべての子供が平等な権利が与えられる社会にしたいです。
「F-5 個別のニーズを持つ子供への支援」の中で、「〇家庭に様々な負担をかかえている子ども」について、「介護や兄弟姉妹の養育など・・・」といったヤングケアラーを視野に入れた例示などを追記するのはいかがでしょうか。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもであっても大人であっても相談の秘密が守られることは大前提になる。</li> <li>・子どもの抱える課題を共有する場合に関して「必ず」子どもの同意が必要とあるが、個人情報保護法・個人情報保護条例からも生命にかかわる問題等の一定の要件がある場合であれば情報共有は認められており、法律等を超える内容の条例となっているが問題はないのでしょうか。</li> <li>・子どもの意思を「必ず」尊重した結果、子どもの命が失われる可能性が高いと思われる内容であっても対応できないことが懸念される。</li> <li>・子どもの意思表示に関しても0歳～18歳までの範囲があり、意思決定の尊重に関してはどのように判断しなければならないか。</li> </ul>
「子どもの休む権利」について、その理念は否定しないが、理由を問わず年間所定の日数学校を休むことを認めるという、社会人同様の有給休暇的なものの導入については全くもって賛同できない。そもそも有給休暇は労働の対価の権利として発生するものであり、義務教育を受ける立場の児童生徒とは根本的に異なる。教師の管理面からも、どの生徒も事由如何に拘らず自由に休める状況が生じると、教師は生徒の欠席事由を把握できないうえ、授業進捗にも大きな支障が出る。また、子どもの頃から気が乗らないから休むというような易きに流れる行動を正当化することは、その子の学力等に悪影響を与えるばかりか、権利の濫用、権利と義務の履き違えといった弊害が出る虞もあり、子どもの将来のためにもならないと考える。

<p>F－１（１） 自分らしさを取り戻すための休む権利について、青少年自殺増加を踏まえて説明するのは本市の実態に合っていないと考える。自殺予防のための休む権利なのか。また、子どもを過度な競争主義の環境にさらさないことを言いながら、欠席が入試の不利になるということを理由に挙げていることに違和感がある。休暇制度を導入したいための論の展開に思えてならない。骨子にあるように、必要な場合に学校を休むことについて、学校・家庭・地域の理解が得られるように啓発に努めることが大事である。</p> <p>（３） 図書室→学校図書館に文言の変更をお願いします。また、現在市立小中学校の学校図書館には、Wi-Fi環境が全校すでに整備されています。整えられることが望ましいとの委員のご意見だと思いますが、記述の変更をお願いします。</p> <p>F－２ 普通教育機会確保法第１３条は、「不登校児童生徒の状況に応じた学習活動が行われることになるよう、必要な情報の提供、助言、その他の支援を行うために必要な措置を講じるものとする。」とあり、経済面の支援を求めているものではないと考える。また、市がチャレンジルームやむさしのクレスコーレの整備を行っているのは、同法１１条に基づいた施設の整備等であり、「現金給付とは異なる形で」と表すことは違うと考える。</p> <p>F－４（２） 部活動に参加することは、子どもの意志であり、これまでも強制されるものではない。社会参加を促すために放課後の時間を活用することは重要だが、その選択は子どもにある。会議を設置するために部活動のあり方を見直すことは違うと考える。また、これまでもTeensムサカツの活動や武蔵野市民科の学習の成果を生かし施策に反映されてきた。新たな会議体として設置し、所管する部署の負担や似たような取組が複数存在することより、Teensムサカツの活動を評価し、継承・発展させることの方がより具体的である。新たな会議体で意見を言わないと市政に反映されないという仕組みを作るより、Teensムサカツの活動や武蔵野市民科の学習の成果の一部が市政や施策に反映される方が子どもの活動への動機付けとなる。武蔵野市としてこれまで市民参加を大事にしてきたプロセスを生かすことになるかと考える。</p> <p>（３） 構成員、パートナーという表現に違和感がある。「子どもが学校のパートナーとして参加できる」という意味が分からない。子どもの学ぶ権利を保障する学校という場において、自治的組織としての児童会、生徒会活動を充実させることはとても重要である。また、子どもが意見を表明し、学校が意見を聞くことも大事である。社会参画を促す、社会参画の資質・能力を育てる場としての学校であり、運営する場ではないと考える。</p>
<p>「欠席が入試に不利であるという理由もあって、子どもの学校を休む権利の行使を妨げる可能性があります」→休みの理由をあまりにも矮小化していないか。子どもが「休みたいけど休めない」理由はもっと多面的・多角的ではないか。例えば、「休みたいけど、勉強が遅れるかもしれないから休めない」「休んだら他の子から『なんで休んだの？』と尋ねられるのが嫌だから休めない」「体調は悪いけど、友だちと学校で遊びや係の仕事をやると約束したから休めない」など、心理的なプレッシャーこそが「休みたいけど休めない」根本の原因であり、そういった心理的なフォローこそが重要ではないか。ここでは、一つの案として「子ども特別休暇」や地域による休みの子の受け入れなどが工夫として示されているが、欠席扱いにならない休みをつくるのが、そういった心理的なフォローにつながるのか疑問である。休みを取ることで、前述のような心理的なプレッシャーは解消されるのか。休めば休んだ分だけ、「今度、学校に行ったときに何か言われるかもしれない」と登校に対する抵抗感が生まれるのではないか。学校には、スクールカウンセラーなど心理の専門職が入っているが、そういった心のケアを行う人、場所、機会の充実こそが「子どもの居場所」を確保するうえで大切なことではないだろうか。</p>
<p>子どもの居場所については、大野田小のチャレンジルームや四中の帰国外国人教育相談室は、学校敷地ではない所の方が、利用しやすいと思われます。</p>
<p>今はニュース等を聞いていると、子どもの居場所ということが大切だなと思います。p22の宿泊型の居場所というのはとてもいいなと感じました。普段の環境から離れ、ひとりになり、今自分が置かれている状況や、今後のことをゆっくり考える環境は必要だと感じます。同時に考えたことを素直に話せる環境が必要だと思いました。</p>
<p>虐待などを受けていたり、ヤングケアラーに当たる子供は、自分の生活が当たり前なので、その状態が普通でないと理解し、相談に至るまでに時間がかかったり、相談するまでいかないうちが多々あると思います。相談があって初めて動くのでは遅い場合がありますし、異変に気付いた周囲や職員が各部署と連携を取り、サポートしていく体制が必要かと思います。また、行政に相談することによって何とかなる事もあるので、子どもたちに行政にどのようなサポートがあるのか知ってもらうことも重要かと思います。個人情報保護を名目に横の連携がとれずに亡くなる命がないような、また適切なサポートを受けられるような仕組みを作っていただきたいです。</p>
<p>「子どもの特別休暇」という斬新なアイデアがありましたが、皆勤賞や精勤賞が未だ学校現場に存在している限り（それが評価されている限り）、意味のないものにならないでしょうか？</p>
<p>No.4 と関連して。行政が個別の家庭へ介入するのはハードルが高いが「実態の把握」についてはある程度市の責務として盛り込むべきだと思われる。</p>
<p>子どもが自身の権利を知る機会を定期的に設けることは非常に良い取り組みかと存じます。</p>



質問7「G 子どもが安心、安全に生活していくために についてご意見がありましたらご記入ください」
G 5 子どもの権利侵害の相談・救済の仕組み 第三者的相談救済機関の創設 機関の実効性を担保するために、もう少し強い表現でもいいのではないかと。関係する市の機関に対しての調査権（市は調査に協力しなければならない）と、勧告権（市は勧告を尊重しなければならない）を記述したらどうか。市民と、事業者に対しても同様のことはいえないか。
・暴力から逃げてくる子どもを避難する体制に関しては、最終的には親の意思に反して子の監護を行うこととなってことも考えられる。児童相談所に一時保護を行ってもらうことが考えられるが、関係団体との体制を整えるにしても法的に問題のないような形にしなければならないのではないかと。
虐待やいじめの防止に向けて、子どもからの発信は欠かせませんが、組織や大人が過剰反応をすることで発信をしづらくさせてしまっているのではないかと感じる事もあります。手遅れにならないことが大事ですが、子ども達が発信しやすい状況作りが必要だと思います。
子どもの頃の遊びを思い出すと、木に登ったり、塀や屋根の上によじ登って歩いたりすること楽しかったです。大人になってみると危険な行為で「命がけで遊んでいたんだな」と思います。一方、このようなチャレンジから危険性などを学ぶことは重要と思うので、補足の冒険遊び場の件など、もっと記述にしていきたいと思います。
スクールソーシャルワーカーが現在6名いますが、子どもが安心、安全に生活していくためには、より活躍できる機会を増やしていくことが大事です。
インクルーシブという言葉が出ていましたが特性のある子等の権利だけでなく、その周りで一緒に過ごす子供（大人）の権利も必要だと感じます。 子供は（親も）発達障害ということは分からず、隣の子が～をして授業聞こえない、嫌なことをされると被害を受け止めます。被害を被っている周りの子にしてみたら何故そのような事をするか分からず、嫌な事をされるのです。それ故にいじめに発展する事もあるかもしれません。ただ、周りの子も迷惑だなど思う事をされているという事実はあると思います。また、特性のある子の「お世話係」のような位置づけをされ、子供ながらに精神的に厳しくて不登校になった子も知り合っていました。 特徴のある子の権利と共に、周りの子の権利も大切にしてほしいと考えています。インクルーシブという特徴のある子のみ取り上げられますが、その周りにはそうでない子たちがたくさんいるのです。その子達も同様に苦しんでいます。すべての子供が安心安全に学校、家庭、地域で過ごせることを願います。
いじめた側への対応を記載することはできないのでしょうか。
児童相談所、保健所、警察、市役所の連携して対応出来るシステムの構築（ネグレスト問題等）
いじめが起きた時、いじめられた子供が学校に通えるようにするためにも、欧州のように、加害者側を別教室にする等し、いじめられた子供が安心して通えるように変えていかないといけないのではないのでしょうか。いじめる子は何かしらストレスや闇を持ってそのような行為に至ったと考えれば、加害者側へのカウンセリングが必要かと思います。
G-4のいじめの防止において、「いじめる側の子ども」についての言及がひとつもされていないが、そちら側の対応も大切かと思います。「いじめる側の子ども」の権利はどのように考えるのか？
質問8「H 子どもの権利を保障する市の施策づくりとその水準維持・発展 についてご意見がありましたらご記入ください」
子どもの権利条例が上位で、それをもとに計画される「子どもプラン武蔵野」と「学校教育基本計画」との関連づけが気になります。
小学1年生からタブレットが配布されましたが、youtubeなど中毒性のあるサイトは閲覧制限が必要ではないのでしょうか。「ログが残るから見たことはわかる」と言って聞くような子供が果たしてどれくらいいるのでしょうか。共働きで夕方まで親の目もない、また帰宅しても家事に追われて子どものPC視聴に目を配ることも難しい家庭は多いでしょう。ちなみに三鷹市は配布タブレットはiPadでyoutubeは見られないようになっているそうです。見る権利、調べる権利もあるでしょうが、むやみに権利を与えるだけでなく、正しく子供を導いていけるような仕組み作りのため、改善をしていただければと思います。

かつて武蔵野市では議場を使い理事者はじめ部課長級が出席するほぼ本会議と同様の形式をもった「子ども市議会」を開いたことがある。大人がやってあげるだけのもの、個別の子どもが分断されている状況、行政サービスの拡充のみでは不足であろう。子どもの主体的な活動を促し、建設的な意見の交換をおこない、発展のための意見を聴取できるような場が設けられることが望ましいように思う。
大人にも広めていくことも重要かと存じます。
質問9「その他全体についてのご意見がありましたらご記入ください」
おとなへの移行期間部分についてはより議論が進むことを希望したい。
E-2にはこどもの権利条約には義務はない。こどもの権利と親の義務との対。との記載があります。ある種”義務”になってしまうのかもしれませんが、子ども自体が自らが幸せになる努力をするということなのではないかと思いました。そのほかの部分などで記載がありましたら申し訳ありません。
今回、このような委員会が立ち上がり、条例を検討できていることは良いことだと思います。条例が策定されたあと、具体的にどのように活用されていくのが大事なことだと思いますので、具体化を期待します。
子ども向けについてなんですが、自分が小中学生ならとても読めないです。そもそも権利ってなに？という話で、辞書にはあることを自分の意志で自由におこなえることのできる資格とあります。そもそも、みんなのこんなことを大事にしたいんだよ ということを自分が子どもが読むことを考えながら書いた方がいいんじゃないかなと思いました。 その後のこともできれば子どもたちの日常の暮らしから具体的な例を挙げて、こんな困りごとがあった時には大人たちはこう支援して、こうやって改善できるようにしたい、というように書ければ伝わりやすいかなと思います。また第2号を期待しています。
①子供向けの配布物について具体的に書かないと子供はどんな時、どんな事なのか分かりにくい。 ②対象が中高生向けなのでしょうか。自ら発信することが難しい年齢の小学生にも分かりやすく説明をする事も必要。
子どもの権利に関する条例自体はとても良いものだと思いますので、一部の人（実際に権利の侵害を受けてしまっている子ども（いてほしくないですが、、）や、ムサカツに参加する等関心が高い子、地域の支援者等）にだけでなく、「自分にはあまり関係がない」と思っている子どもや保護者（実際にはこちらが大半だと思います）にこそ知ってもらったり、関わってもらいたいと思います。周知方法等についてはぜひ検討していただきたいと思います。
チャレンジルーム・むさしのクレスコーレなどがあるという事を知り、とても良いと思いました。 子どもの権利はわがままの助長というご意見もあるようですが、その区別についても子ども本人とご家族や周りの大人が考え、話し合うきっかけになると良いと思います。何事も、バランスが大事だと思いますが、、。 子どもの権利擁護委員の権限はどれくらいあるのかなど、勉強したいと思います。 子どもの権利について、子どもは勿論、大人にこそ周知できるようにしてほしいと思います。 子ども向け概要版、とても見やすくて良いと思います。
パブリックコメントで子供からの意見を聞くことはいいことだと思います。特に進学する年齢になろうとしている、家庭に事情を抱える子供達の意見は重要だと思います。ただ、本当に悩んでいる子が声を上げてくれず、抱えている可能性はあると思います。学校でも市長への手紙ならぬ「校長先生への手紙」のような、いつ投函してもよい目安箱的なものがあると隠れた声を拾う機会につながるかもしれません。
子どもの権利を市民に周知していくにあたり、法務省の啓発活動のサイトや、人権啓発動画コンテンツなども取り入れると良いと思う。

<p>「学校等育ち学ぶ施設」等の文言が学齢期の子どもを主に対象としているような印象を受ける。子どもの定義として18歳未満のすべての者とされているので、「学校等育ち学ぶ施設」は「育ち学ぶ施設」に統一した方が良いのではないかと思う。      子どもの権利に関する条例は、子どもが主体となるものなので、条例の文章は子どもが読みやすく理解しやすい文章が良いと思う。（「～です。」等）</p>
<p>虐待防止のためには、家庭に一番身近に関わっている保育園が家庭状況を把握し情報共有していくことが大切だと感じる。虐待防止だけでなく、子ども幸せを守り心身ともに豊かに成長させていく役割を担う保育園として、公務員保育士ができうる具体的な手立てを考えていけるとよいと思う。</p>
<p>学校に何の疑問もなく素直に普通に通えている子どもたちがこの条例ができたことによってかえって混乱しないような条例を希望します。</p>